

高校時代の経験がバックボーンに 法律から歴史、哲学、映画まで

< 第351回 > 2010年11月22日掲載



マリタックス法律会計事務所
弁護士 黒澤 謙一郎 氏

―― マリタックスさんの業務内容を簡単に教えてください。

黒澤 海難事件から、ビジネス紛争、シップファイナンスなど船に関することなら何でも手広くやっています。

―― 元々海事弁護士志望だったんですか？

黒澤 そうですね。きっかけは中央大学在学中に金融法や会社法の分野で有名な野村修也教授のゼミで2年間勉強をしたのですが、教授の専門の一つがマリンだったんです。いずれは僕もマリンを勉強したいという気持ちがあり、それで海事事務所を選びました。

―― マリンを選ばれた理由は他にもありますか？

黒澤 香港の高校に通っていてインターナショナルな環境にいたので、その延長線で何かインターナショナルな仕事がしたく、それが出来るのはマリンだと思ったというのがあります。

―― 香港の高校とは。

黒澤 日本の高校には2年生の1学期までいて、その後、UWC (United World College) という留学の機関があるのですが、その香港校に2年間通っていました。単身で寮生活をしていたのですが、世界80か国から生徒がきていました。

―― 香港の高校に行かれていたということは、人間形成など刺激が多かったのでは？

黒澤 そうですね。そこでの人間形成やコミュニケーション、勉強したことが今のバックボーンになっていますね。

―― 英語の授業に抵抗はなかったのですか？

黒澤 大変でしたね。国際バカロレア資格とって日本とは全く違う勉強で、しかも最初からネイティブと混じって英語の授業ですから。ただ、ネイティブじゃない生徒が2/3くらいいて、試験なども文法が間違っても大目に見るという前提だったので、なんとか頑張れました。

―― 高校生の時に弁護士を目指されたのですか？

黒澤 小学生のころから、何か法律に携わる仕事に就きたいと思っていました。法律に興味を持ったのが、世の中にはルールがあるということ。皆がルールに従っていれば「交通整理」ができて、世の中丸く収まるはずだと生意気にも思ったのがきっかけなのですが、ルールだけではどうにもならないこともありますよね・・・。

―― 法律というのはわりきれない部分もありますよね。経験が重要になってくると思うのですが？

黒澤 そうですね。様々なケースをこなして経験を積みば予測がつきやすくなるのではないかと思います。でもまだ、若いですから、フラストレーションは多少感じています。

―― 何かこぼれ話はありますか？

黒澤 商事法務が出版している「NBL」という雑誌に、僕も執筆を手伝わせてもらった記事が掲載されたことです。内容は、船舶先取特権成立の準拋法をめぐる最近の議論および判例です。学者の先生方も目を通されている雑誌なので、「読んだよ、頑張ってるね」とロースクールの同窓会で声をかけていただいた時は嬉しかったですね。

―― ご自身でいつも読んでいる雑誌に記事が載ったら嬉しいですね。貴所の松井先生もテレビにご出演されていますが、そのうち先生にもテレビ出演のオファーがくるのでは？

黒澤 いや〜、僕はいいですよ。そういえば、東京新聞にコメントが載ったことはありましたね。艦船と漁船の衝突事故の刑事裁判についてのコメントです。

―― 思い出の残る仕事をお伺いしたいのですが。

黒澤 やはりNBLで書いた事件に参加したことです。船舶先取特権に基づいて船が差し押さえられたのですが、その後の処理を手伝ったのが印象に残っています。あと中国の梧州に船舶の衝突事件処理で行ったのですが、仕事のあと香港の保険担当者の方と一緒に屋台で食事をし、その日はなんともなかったのですが、翌日になり体調を崩してしまいました。予定していた飛行機に乗れないほどの寒気と熱に見舞われながらもどうにか帰国出来たのですが、その後も体調が悪かったので、当時流行していたSARSの可能性もあるかと思い、区に電話してSARS対応で診てもらったのですが、どうやら細菌が血液の中に大量に入っていたみたいで、急性胃腸炎と診断されました。翌日裁判が2件あったのですが欠席してしまいました。

―― それは辛かったですね。人生最大のピンチとまではいかないですかね!? 今までピンチはありましたか?

黒澤 そうですね。ピンチが云々言うには年齢的にまだ早いですかね(笑)。

―― 最近ご結婚されたとか?

黒澤 7月に入籍しました。もうすぐ式を控えているのですが打ち合わせや準備が大変ですね。

―― おめでとうございます! 二人の時間はどのように過ごされているのですか?

黒澤 映画に行ったり、町歩きをしたりしていますね。そういえば街歩きと言えば、東京スリバチ学会というのに参加したことがあります。

―― スリバチ学会とは?

黒澤 すり鉢状の地形を散策しながら、坂道巡りをして東京の起伏を楽しむといった学会です。建設会社の方が学会長で起伏のある地図をCGで作ってもらい、古地図などももらって色々な人と歩いてみたりしています。この六本木界限も坂が多くて面白いですね。

―― それは面白そうですね! まだお若いですが健康法とはありますか?

黒澤 まだ若いので特に気を付けてはいませんが、体質的・体力的な問題で、睡眠時間は確保しようとしています。

―― 好きなお言葉とかありますか?

黒澤 「人間万事塞翁が馬」です。昔から好きな言葉ですね。今までの人生で色々選択してきましたが、結果から遡るとそれがベストな選択だったと思うんですね。受験や今の事務所に入ったのもそうですし、その選択をしたから色々勉強させていたいているし、めぐり合いなんだなと思います。

―― ポジティブ思考なんですね。先生は本とかは読まれますか?

黒澤 法律の本以外では、普段、歴史や哲学の本を読んだりします。最近は“菊とポケモン”という本を読んでいます。ポケモンは、ポストモダンな現実に合致して世界で共感されているそうです。その前は“武力による政治の誕生”という本を読みました。これは、鎌倉幕府の将軍権力の発生についてです。本屋や新聞の書評欄などで見て気になったら読みますね。

―― 年間どのくらい読むのですか?

黒澤 そうですね。人間の引き出しを増やすためにも、法律や経済だけでなく色々なことにアンテナを張り巡らせたいと思っています。実はマンガも“閻金ウシジマくん”とか“チェーザレ”とか読んでます。

―― なるほど。最近感動したことはありますか?

黒澤 映画なのですが、「告白」と「悪人」が素晴らしく、甲乙つけがたかったことですね。映像が特徴的だったのが「告白」で、「悪人」はストーリーが素晴らしく、感動しました。

―― 今一番の関心事は?

黒澤 かつこよく円高とか言いたいところですが(笑)、「告白」と「悪人」のどちらが今年の日本アカデミー賞をとるかです。真面目に言えば、今後の日中関係、日米関係がどのように変容するか気になります。

【プロフィール】

(くろさわ けんいちろう) 1980年5月23日生まれ。東京都出身。1999年5月 Li Po Chun United World College of

Hong Kong卒業,国際バカロレア資格取得。2004年3月 中央大学法学部卒業、2006年3月 東京大学大学院法学部政治学研究科法曹養成専攻修了。 2007年12月マリタックス法律会計事務所 入所。 現在に至る。

[記事一覧に戻る](#)